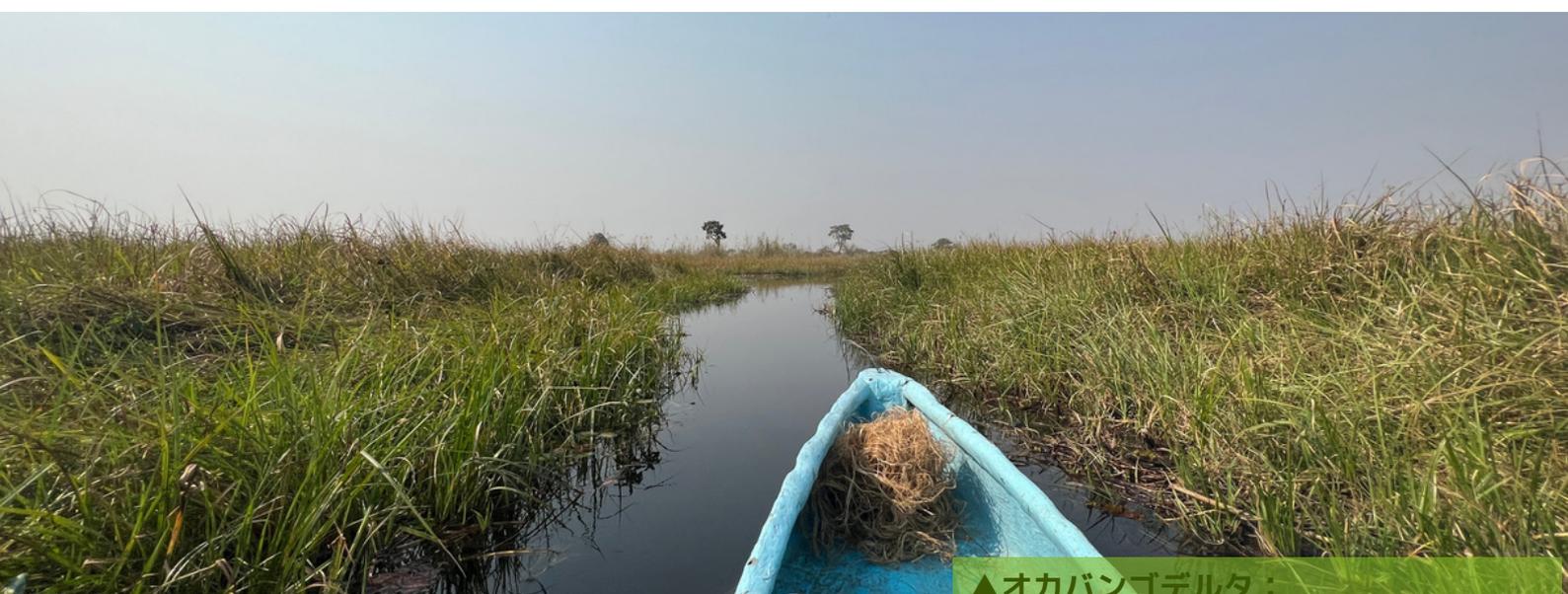


ボツワナだより



自然と野生動物の宝庫

今までお読みいただきありがとうございました。やはり最後はボツワナで私が最も好きな、自然と動物を紹介したいと思います。

アフリカ象個体数世界No.1のボツワナの象の聖地ナタ



ナタという所に象の保護区があります。そのど真ん中にあるロッジに宿泊すると、部屋のすぐ外に象が居てワクワクしました。ボツワナは象牙の密輸を禁じたり、象を他国に輸出したりしていて、象に関してはアフリカのリーダー的存在です。

ウユニ塩湖にも劣らない？ボツワナの広大な塩湖



塩湖の上に布団を敷いて、星空の下で眠るというツアーに参加しました。どこまでも続く自然が作り出した期間限定の景色に息を飲みました。ミーヤキャットにも出会いました。



ボツワナ最古の国立公園チョベ・ナショナル・パーク



ボツワナの最北端にあり、チョベ川が流れるためゾウやカバをはじめ多様な動植物が生息します。ボートクルーズでは船上から間近で動物を見られました。ナイトサファリではボツワナ初のヒョウに出会うことができました。

狩猟採取民サン族に出会える村ニューカデとハンシー



ボツワナの70%を占めるカラハリ砂漠に住んでいた先住民「サン族」が、政府の自然保護の政策によりこの村に移住しました。この民族を研究する日本の大学院生にも出会い、様々な話を聞くことができました。

▲オカバンゴデルタ：

世界三大内陸デルタで世界遺産の一つがボツワナにあります。このデルタに、現地の方々の移動手段として古くから根付く「モコロ」と呼ばれる木船があります。このモコロで、狭い水路を渡るのがこの土地の観光資源となっています。水の音が耳に心地よく、顔を切る風が涼しかったです。



▲モコロから見える動物たち



▲セスナで上空から見た景色

人生初のセスナに乗りました。美しいデルタの形や動物の群れが見られましたが、開始10分で乗り物酔いし、その後は下を見る余裕もありませんでした。

帰国報告会

20ヶ月の成果

帰国報告会とは

派遣半年後：活動計画書の提出

派遣1年後：中間報告会

派遣2年後：帰国報告会

第8巻でも紹介しましたが、協力隊は任期中にどんなことを達成するかを計画します。8月の中間報告会同様、3月に帰国報告会があります。この記事執筆している今はまだ2月ですが、以下のようなことを報告しようと考えています。

私の活動計画

①ポイ捨て防止の啓発活動

②分別回収の開始

③生ごみコンポストによる有機栽培促進

これらが私の活動計画、私の活動拠点は小学校と自治会でした。

①ポイ捨て防止の啓発活動

5つの小学校で、小学4年生～6年生に計180回の授業を行いました。ポイ捨てがどれくらい減ったか測るのは難しいので、先生たちにアンケート調査をしました。これがその結果です。

活動当初

4.66

現在

5.86

※10段階。高いほど良い。

②分別回収の開始



5つの小学校に分別ゴミ箱を設置しました。左が紙、中央がプラスチック、右が食べ物ですが、ご覧の通り分別されていません。私は週に1度しか訪問できないので、各クラスに2名ずつ居るエコクラブの生徒がクラスメートに注意を促すルールでしたが、それもうまく機能していませんでした。



紙ごみは再生紙工場に引き取ってもらい、生ごみは堆肥にして学校園で利用する計画でした。しかし、工場と合意してから中々回収が始まらず時間切れとなりました。学校園も学校のスケジュールが合わず実現せずでした。

③生ごみコンポスト(堆肥化)

当初、5つの自治会で生ごみコンポストを使って野菜栽培をする計画でした。しかし私自身のスケジュール、また自治会の施設面の問題から、1つの自治会でしか達成できませんでした。



また新たな問題が発生しました。今年ボツワナは雨季にさえ雨が降らない超水不足を経験し、せっかく芽が出ても枯れる連続で、たまたま生ごみの中にあつたスイカだけが育ちました。

活動計画以外の成果

ボツワナ人との交流により日本を知ってもらうこと、盆踊りやうどん、書道などを通じて日本文化を少し広められたことなどは自信を持ちたいと思います。また日本の中高生向けにオンライン授業や交流を計10回(1200人対象)行い、ボツワナや国際理解についても学んでもらえました。

活動を終えての感想

「海外ボランティア」のかっこいい響きの裏には数えきれない困難があることを体感しました。2年では目に見える成果が得られませんでした。協力隊は何代もかけて目標達成します。私の蒔いた種がいつかボツワナの大地に美しい花を咲かせることを祈ります。

セルフ・インタビュー！

Q1: 一番好きなボツワナ料理は？

セソワです！牛肉を直火で何時間も煮込み、細く裂いた料理。優しい味がして主食や野菜とも合います。



Q2: 一番嬉しかったことは？

子ども達が「ポイ捨てをせずにゴミをポケットに入れてるよ！」などと、私の教えたことを実践してくれた時です。また初めは協力的ではなかった同僚や先生が、私の活動に興味を持って手助けしてくれると心強く、一気に事が進みます。

Q3: 最も大変だったことは？

やはり文化や慣習の違いです。日本では簡単にできることも思わぬ障壁があります。例えば分別ゴミ箱を一生懸命作っても、盗まれたり別の用途に使われたりします。教育よりもお金やモノを欲しがりますがJICAが寄付したゴミ箱はすぐに壊れてしまい、お金やモノは長続きしないことを示す良い例になりました。

Q4: 一番の思い出は？

2024年の年越しを、友人宅でカウントダウン花火を見ながら過ごしたことです。前号に書いた通り、クリスマスを1人寂しく過ごした分、外国人の私を受け入れてくれた友人のご家族に感謝し、これでもかというくらい楽しみました。

Q5: ボツワナで得たことは？

異文化に対する耐性です。ボツワナと日本の国民性は正反対と言っても良いくらい異なり、相互理解がとても難しいです。例えば働かないボツワナ人に腹が立ってしまいましたが、それには宗教や、努力しても国が良くならないという事情が複雑に関係しているため、一概に怠惰だとは言えないのです。

反対に、人との繋がりを大切にしたり相手の失敗に寛容だったりする部分は、私も見習いたいと感じました。

Q6: この経験を日本でどう生かす？

授業でボツワナについて話し、世界にはこんなに違う国があることを知り、物事を広い視野で柔軟に考えられる生徒を育てたいです。また環境を守らなければならないのはボツワナ人も日本人も同じです。これからは日本でできることを続けていきたいです。